

環境経営レポート

2022年度

2022年4月～2023年3月

ご挨拶

建設系産業廃棄物の収集運搬・中間処理施設を、民間業者では初めて札幌市より許可を取得して以来、リサイクルシステムに貢献すべく努力して参りました。
今後も引き続き、『地球環境に貢献する建設現場のサポーター』を合言葉に全社一丸となり積極的に取り組んでいく所存であります。

エコライン株式会社

〒003 - 0869 北海道札幌市白石区川下 641 - 170

TEL 011 - 874 - 0570 FAX 011 - 873 - 2046

E-mail [info@ecoline - kk.co.jp](mailto:info@ecoline-kk.co.jp)

URL [https://www.ecoline - kk.co.jp](https://www.ecoline-kk.co.jp)

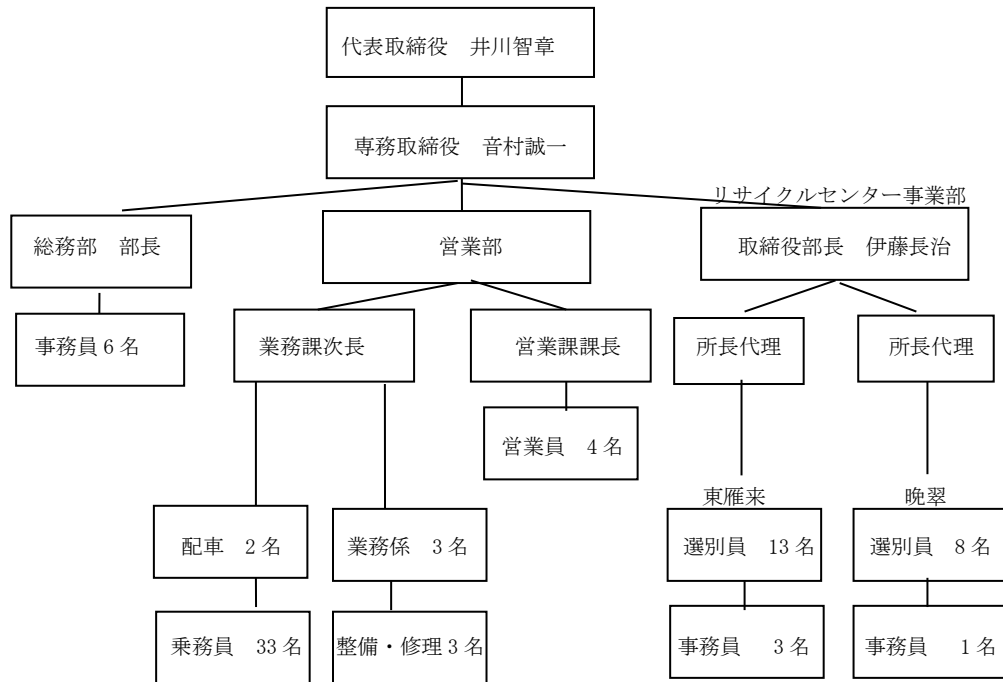
発行日：2023年7月1日

会社概要	2・3・4・5・6・7・8
	別紙1・・・15 別紙2・・・16
1. 対象範囲（認証登録）	9
2. 環境改善活動の取り組み体制	9
3. 環境に関する基本方針	10
4. 環境目標と実績	11・12
5. 環境改善活動の評価及び次年度の取組み	12・13
6. 法的及び組織が同意するその他の要求事項	14
7. 2022年度活動の最高責任者の評価と今後の課題	14
8. 別紙1	15
9. 別紙2	16

■ 会 社 概 要

- 会 社 名 : エコライン株式会社
- 所 在 地 : (本社) 北海道札幌市白石区川下641番地170
(東雁来リサイクルセンター) 札幌市東区東雁来262番地132
(晩翠リサイクルセンター) 空知郡南幌町南10線西14番地
- 代 表 者 氏 名 : 代表取締役 井川 智章
- 事 業 内 容 : 一般貨物輸送・産業廃棄物の収集運搬及びリサイクル並びに中間処理
- 設 立 : 昭和50年10月24日
- 資 本 金 : 60,500,000円
- 売 上 高 : 1,597,720千円
- 従 業 員 数 : 81名
- 敷 地 面 積 : 本社 15,849.62㎡
東雁来リサイクルセンター 18,604.00㎡
晩翠リサイクルセンター 16,536.20㎡
- 延 床 面 積 : 本社 486.00㎡
東雁来リサイクルセンター 1,200.58㎡
晩翠リサイクルセンター 3,070.93㎡
- 沿 革 :
 - 昭和42年 山本 禎男が個人で運送業を開始。
 - 昭和50年10月 運送免許を取得し株式会社に改組。札幌市白石区北郷より白石区川下に本社を移転。
 - 平成12年3月 湯佐英司が社長に就任し北興グループの一員となる。
 - 平成18年3月 山本山運輸(株)、小林運輸(株)が合併し社名をエコライン(株)とし新たなスタートを切る。
 - 平成19年8月 松下運輸(株)より事業譲渡を受け新生エコライン(株)がスタートする。
 - 平成21年6月 建設系産業廃棄物の一般受入開始。
 - 平成26年5月 井川 智章が社長に就任する。
 - 平成28年12月 空知郡南幌町に晩翠リサイクルセンターオープン。

エコライン株式会社 業務機構図



(1) 事業規模

①収集運搬業

- ・ 運搬車両の種類と台数：48台（ユニック車32台、パッカー車7台、ダンプ車6台、ウイング車1台、塵芥車1台、バン1台）
- ・ 積替保管施設の有無と面積及び保管上限量：有 空知郡南幌町字幌向原野1013番13、面積 34.17㎡、保管上限93.6㎡
- ・ 種類（産業廃棄物）

北海道	燃え殻・汚泥・廃油・廃酸・廃アルカリ・廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・ゴムくず・金属くず・ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず・がれき類・ばいじん 以上、石綿含有産業廃棄物であるものを含む。また、水銀使用製品産業廃棄物であるものを含み、燃え殻、汚泥、廃酸、廃アルカリ、ばいじんについては水銀含有ばいじん等であるものを含む。
-----	---

- ・ 種類（特別管理産業廃棄物）

北海道	廃油・廃酸・廃アルカリ・廃石綿等
-----	------------------

②処分業

○東雁来リサイクルセンター

- ・処理施設の種類：選別・圧縮～廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物であるものを除く）
- ・処理する産廃の種類：一般廃棄物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く下記の産業廃棄物（工作物の新築、改築、又は除去に伴って生じたものに限る。）

圧縮	廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物であるものを除く）
選別	廃油（アスファルト防水材に限る）・廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・金属くず・ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず・がれき類・石膏ボード

- ・処理能力：選別160 t/日、圧縮3.36 t/日
- ・処理方式：中間処理
- ・処理工程図（別紙1）受入⇒手選別⇒搬出先（焼却、破碎、埋め立て）

○晩翠リサイクルセンター

- ・処理施設の種類：破碎・圧縮

圧縮	廃プラスチック類、紙くず
破碎	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類

- ・処理能力：圧縮10.9 t/日
- 破碎 廃プラスチック類・42.2 t/日、紙くず・72.3 t/日、木くず・99.4 t/日、繊維くず・21.7 t/日、金属くず・68.1 t/日、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず・180.7 t/日、がれき類・184.5 t/日
- 木くず（チップ）・76.0 t/日
- ・処理方式：中間処理
- ・処理工程図（別紙2）受入⇒前処理⇒破碎⇒焼却、埋立、売却

(2) 処理実績

産業廃棄物取扱量 (中間処理)	2020年度		2021年度		2022年度	
	処分実績 単位 (t)	割合 (%)	処分実績 単位 (t)	割合 (%)	処分実績 単位 (t)	割合 (%)
木くず	7,428	23	5,597	17	6,779	19
紙類	256	1	235	1	337	1
金属くず	1,866	6	1,870	6	1,766	5
がれき類	3,012	9	3,256	10	4,152	12
ガラス、コンクリートくず 及び陶磁器くず	2,379	7	1,372	4	1,514	4
石膏ボード	2,250	7	3,172	10	1,938	6
廃プラスチック	3,827	12	4,949	15	6,610	19
繊維くず	42	0	31	0	27	0
廃油	40	0	0	0	0	0
残さ	11,245	35	11,781	37	11,893	34
合計 (t)	32,300	100	32,263	100	35,016	100

収集運搬 (当社中間処理)	2020年度		2021年度		2022年度	
	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)
木くず	5,176	28	3,870	23	4,667	24
紙類	171	1	169	1	241	1
金属くず	1,689	9	1,185	7	1,209	6
がれき類	2,121	12	2,212	13	3,182	16
ガラス、コンクリートくず 及び陶磁器くず	5,471	30	4,766	29	4,168	22
石膏ボード	1,407	8	1,706	10	1,923	10
廃プラスチック	2,133	12	2,800	17	3,767	19

繊維くず	12	0	12	0	300	2
廃油	21	0	0	0	0	0
合計 (t)	18,201	100	16,720	100	19,457	100

収集運搬 (運搬のみ) (t)	2020年度		2021年度		2022年度	
	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)
木くず	257	23	132	14	120	10
紙類	40	4	7	1	9	1
金属くず	1	0	0	0	11	1
がれき類	646	58	583	60	825	70
ガラス、コンクリートくず 及び陶磁器くず	27	2	71	7	88	7
石膏ボード	4	0	89	9	22	2
廃プラスチック	105	9	59	6	81	7
繊維くず	0	0	0	0	0	0
廃油	3	0	8	1	2	0
汚泥	6	1	1	0	2	0
その他	13	2	4	0	17	1
小計 (t)	1,102	99	954	98	1,177	99
特管物	8	1	22	2	1	1
合計 (t)	1,110	100	976	100	1,178	100

収集運搬 (運搬のみ) (m ³)	2020年度		2021年度		2022年度	
	運搬実績 単位(m ³)	割合 (%)	運搬実績 単位(m ³)	割合 (%)	運搬実績 単位(m ³)	割合 (%)
廃プラスチック	199	65	339	84	57	28
ガラス、コンクリートくず 及び陶磁器くず	45	15	0	0	0	
廃油	45	15	63	16	17	8
廃アルカリ	0	0	0	0	127	63
がれき類	9	3	0	0	1	1
その他	5	2	0	0	0	0
合計 (m ³)	303	100	402	100	202	100

再資源化	2020年度		2021年度		2022年度	
	再資源化 実績	割合	再資源化 実績	割合	再資源化 実績	割合
	単位 (t)	(%)	単位 (t)	(%)	単位 (t)	(%)
木くず	7,428	63	5,597	50	6,779	50
紙類	251	2	235	2	337	2
繊維くず	42	0	31	0	27	0
石膏ボード	974	8	1,639	15	1,541	11
廃プラスチック	519	4	790	7	787	6
金属くず	1,866	16	1,870	17	1,766	13
がれき類	544	5	830	7	2,104	16
その他	251	2	309	2	236	2
合計 (t)	11,875	100	11,301	100	13,577	100

(3) 廃棄物の処理料金

- ・ 運搬距離、廃棄物内容、回収形態等により、都度見積を行う。

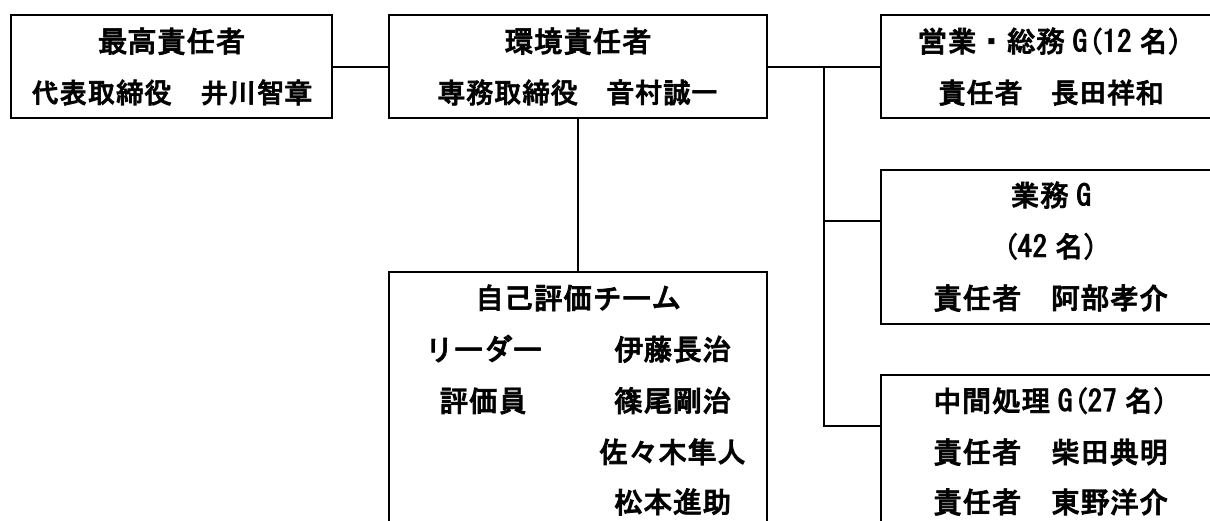
(4) 許認可一覧

許可証	内容	有効期限	自治体名
一般区域貨物自動車運送事業：札幌自第 2329 号 許可年月日：昭和 50 年 10 月 9 日	貨物輸送		陸運局
産業廃棄物収集運搬業許可番号：第 00110018732 号 許可年月日：平成元年 11 月 14 日	・収集運搬	令和 12 年 2 月 24 日	北海道
特別管理廃棄物収集運搬業許可番号：第 00150018732 号 許可年月日：平成 23 年 3 月 4 日	・収集運搬	令和 12 年 3 月 3 日	北海道
産業廃棄物処分許可番号：第 05120018732 号 許可年月日：昭和 51 年 4 月 28 日	・選別 ・圧縮	令和 12 年 3 月 7 日	札幌市
一般廃棄物収集運搬業許可番号：札幌一廃抜根許可第 9 号 許可年月日：平成 4 年 4 月 1 日	・収集運搬	令和 7 年 7 月 3 日	札幌市
産業廃棄物処分許可番号：第 00120018732 号 許可年月日：平成 28 年 12 月 10 日	・圧縮 ・破碎	令和 10 年 12 月 9 日	北海道

1. 対象範囲（認証・登録）

- 対象組織 本 社 : 北海道札幌市白石区川下641番地170
東雁来リサイクルセンター : 北海道札幌市東区東雁来262番地132
晩翠リサイクルセンター : 北海道空知郡南幌町南10線西14番地
- HES適用範囲 : 一般貨物自動車運送業、一般廃棄物（伐採物、抜根等）収集運搬、
産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集運搬、建設廃棄物及び産業廃棄物
の中間処理
- EA21適用範囲 : 産業廃棄物及び特別管理産業廃棄物の収集運搬、産業廃棄物の中間処理

2. 環境改善活動取り組み体制



○管理責任者 音村 誠一 連絡先 011-874-0570

○HES 担当者 音村 誠一 連絡先 011-874-0570

3. 環境に関する基本方針

環境に関する基本方針

<基本理念>

エコライン株式会社は、事業運営と地球環境の保全両立し、住み良い北海道の地域社会を実現するために、全組織を挙げて環境改善活動に取り組みます。

<方 針>

エコライン株式会社は、産業廃棄物の収集運搬、処分業及びそれに関するサービスの提供により発生する環境影響を低減するために、次の方針に基づき、環境改善活動を推進します。

1. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境への影響を常に認識し、全事業所において環境マネジメントシステムを継続的に改善し、汚染の予防にも努めます。
2. 環境に関連する法的及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
3. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境影響要因のうち、以下の項目を環境改善活動の重点テーマとして取り組みます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減（電気使用量、車輛燃料の削減）
 - (2) 水資源の保全（一般水道水の使用量の削減）
 - (3) 循環型社会への対応（産業廃棄物のリサイクル率の向上）
 - (4) グリーン購入の推進
4. この環境に関する基本方針は、全従業員が理解し、行動出来るよう周知徹底するとともに、社外にも公表します。
5. 地域密着型の環境保全活動に積極的に参画します。

この環境に関する基本方針を達成し、環境パフォーマンスを向上させるために、環境目標を設定し、当社の全従業員をあげて、環境改善活動を展開するとともに、定期的に見直しを実施します。

2022年4月1日 制定
エコライン株式会社

代表取締役 井川 智章

4. 環境目標と実績（HES適用範囲）（2022年度）2022/4～2023/3

環境改善活動	具体的施策	目標値	実績値	評価
電気使用量の削減 2022年度まで基準年度2018年度比1%の削減	・冷暖房温度の設定 ・休憩時間の消灯 ・不要電源OFFの励行	209,813 kWh/年	205,266 kWh/年	A
水の使用量の削減 2022年度まで基準年度2018年度比1%の削減	・車輛洗車時の適正使用 ・節水パーツの利用	745 m ³ /年	640 m ³ /年	A
廃棄物排出量の削減 産業廃棄物リサイクル率の向上 2022年度までに41.2%（含む輸出）にする 基準年度 数値（2018年度40.0%）	・分別の徹底 ・廃プラ処分内訳見直し	41.2%/年	43.2%/年	A
グリーン購入 低廃出ガス認定かつ燃費基準達成車への入替促進 2022年度まで目標2台	・トラック2台	2台/年	4台/年	A
軽油使用量の削減 走行1km当たりの使用量を2022年度までに2018年度比1.5%削減する （基準年度2018年度）0.3450/1km	・アイドリング ストップ ・運行効率の確保	0.3390/ km	0.3280/ km <small>（総量371,4550）</small>	A
ガソリン使用量の削減 営業収入1百万円あたりの使用量を2018年度比1.5%削減する （基準年度2018年度10.150/1百万円）	・アイドリング ストップ ・効率的営業の展開	10.000/ 百万円	4.890/ 百万円 <small>（総量7,3960）</small>	A

※取組スタートは2011年6月

※評価基準 A：達成率100%以上

B：達成率90%～100%未満

C：達成率90%未満

追加環境目標と実績（2022年度）2022/4～2023/3

環境改善活動	具体的施策	目標値	実績値	評価
二酸化炭素排出量の削減 2022年度までに2021年度比0.5%削減する （基準年度2021年度1,627 kg-CO ₂ ）	・電気・化石燃料 使用量の削減	1,618 kg -CO ₂	1,754 kg -CO ₂	B

中期環境目標（2020～2022年度）

項目	基準年度 2018年度	環境目標			環境目的
		2020年度	2021年度	2022年度	
省エネルギー	消費電力 216,325 kwh/年	214,073 kwh/年	211,932 kwh/年	209,813 kwh/年	2022年度までに、 新施設の影響を 加味した使用量 から1%/年削減 する。
省資源	水の使用量 767 m ³ /年	759 m ³ /年	752 m ³ /年	745 m ³ /年	2022年度まで、新 施設の影響を加 味した使用量か ら1%/年削減す る。
産業廃棄物の 排出	リサイクル率 年40.0%	40.4%/年	40.8%/年	41.2%/年	2022年度までに 41.2%/年に上げ
グリーン購入	排ガス規制車の 導入	トラック等 2台	トラック等 2台	トラック等 2台	2022年度までに トラック等6台 購入する。
省エネルギー	1kmあたりの 軽油の使用量 0.345ℓ/1km	0.343 ℓ/km	0.341 ℓ/km	0.339 ℓ/km	2022年度までに ▲1.5%削減す る。
省エネルギー	売上百万円あたりの ガソリンの使用量 10.15ℓ/百万円	10.10 ℓ/百万円	10.05 ℓ/百万円	10.00 ℓ/百万円	2022年度までに ▲1.5%削減す る。

5. 環境改善活動の評価及び次年度の取組み

【電気使用量の削減】

○電気使用量は削減目標を達成しました。本社は、昼休みの消灯等節電に努め、電気使用量が前年比4%減少しました。晩翠リサイクルセンターは、チップ製造量が減少したため、前年比で13%使用量が減少しました。東雁来リサイクルセンターは、計量所および休憩所新設により電力量は3%増加しました。日常の休憩時間の消灯・省エネ機器への移行等の細やかな取組みは定着しています。

2023年度も節電に取組み、電気使用量の削減に向けて一層努力していきます。

【水の使用量の削減】

○水道使用量は削減目標を達成しました。本社は洗車時に、晩翠リサイクルセンターは埃対策の散水時に、それぞれ節水に努めています。

2023年度も引き続き節水に取り組み、水の使用量を削減していきます。

【廃棄物排出量の削減】

○排出量削減は目標達成率しました。

石膏ボードの処理量が前年比1,234t減少し、再資源化を積極的に進めた結果、リサイクル率は2021年度52%から2022年度は80%に上昇しています。一方、リサイクル率100%の木くずの処理量が前年比で1,182t増加し、リサイクル率向上の要因となりました。

2023年度も引き続きリサイクルセンターの人員の適正配置と受入量のバランスに留意し、選別精度の維持・向上を図ります。特に、注目されている石膏ボードのリサイクルを強化し、目標に近づけます。

【グリーン購入】

○排ガス規制基準を満たしたトラックを4台購入し、目標を達成できました。

2023年度もトラック4台の入替を実施予定で計画を達成できる見通しです。

【軽油使用量の削減】

○アイドリングストップ等の取組みの他、効率の良い配車により、軽油使用量は前年比減少し、目標を達成できました。

2023年度も引き続きデジタコの有効活用により適正速度での運行を徹底し、目標を達成出来るよう取組んでいきます。

(総量371,455ℓ)

【ガソリン使用量の削減】

○コロナ禍の中、通常の営業活動が抑制され、更に営業担当者の入れ替わりで営業活動は前年に比べ活発ではありませんでした。営業活動が抑制される中、料金改定等の効果もあり売上高は増収で推移し目標を達成できました。

2023年度も、効率的な営業を徹底していきます。

(総量7,396ℓ)

【二酸化炭素排出削減状況】（電力のCO₂排出計数は北海道電力㈱の2018年度実績 0.656kg-CO₂/kwhを使用）

○二酸化炭素排出量は1,754千kg-CO₂となり、前年1,627千kg-CO₂に対して、127千kg-CO₂増加となり目標を達成できませんでした。前年度は、コロナ禍・大雪等の影響により、営業活動が制限されましたが、営業活動の正常化に伴い、軽油の使用量が3%増加したことが、目標未達成の要因です。燃料および電気の使用量を削減し、二酸化炭素排出削減に向けて一層努力していきます。

6. 法的及び当社が同意するその他要求事項

○当社の事業活動に該当する環境に関する法的及び当社が同意するその他の要求事項については、順守状況を定期的に確認しております。利害関係者からの指摘、訴訟等はありません。

<順守した法律>

廃棄物の処理及び清掃に関する法律・令・規則、廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則(北海道)、計量法、札幌市火災予防条例、道路運送車両の保安基準、フロン排出抑制法、建設工事に係る再資源化等に関する法律、プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律

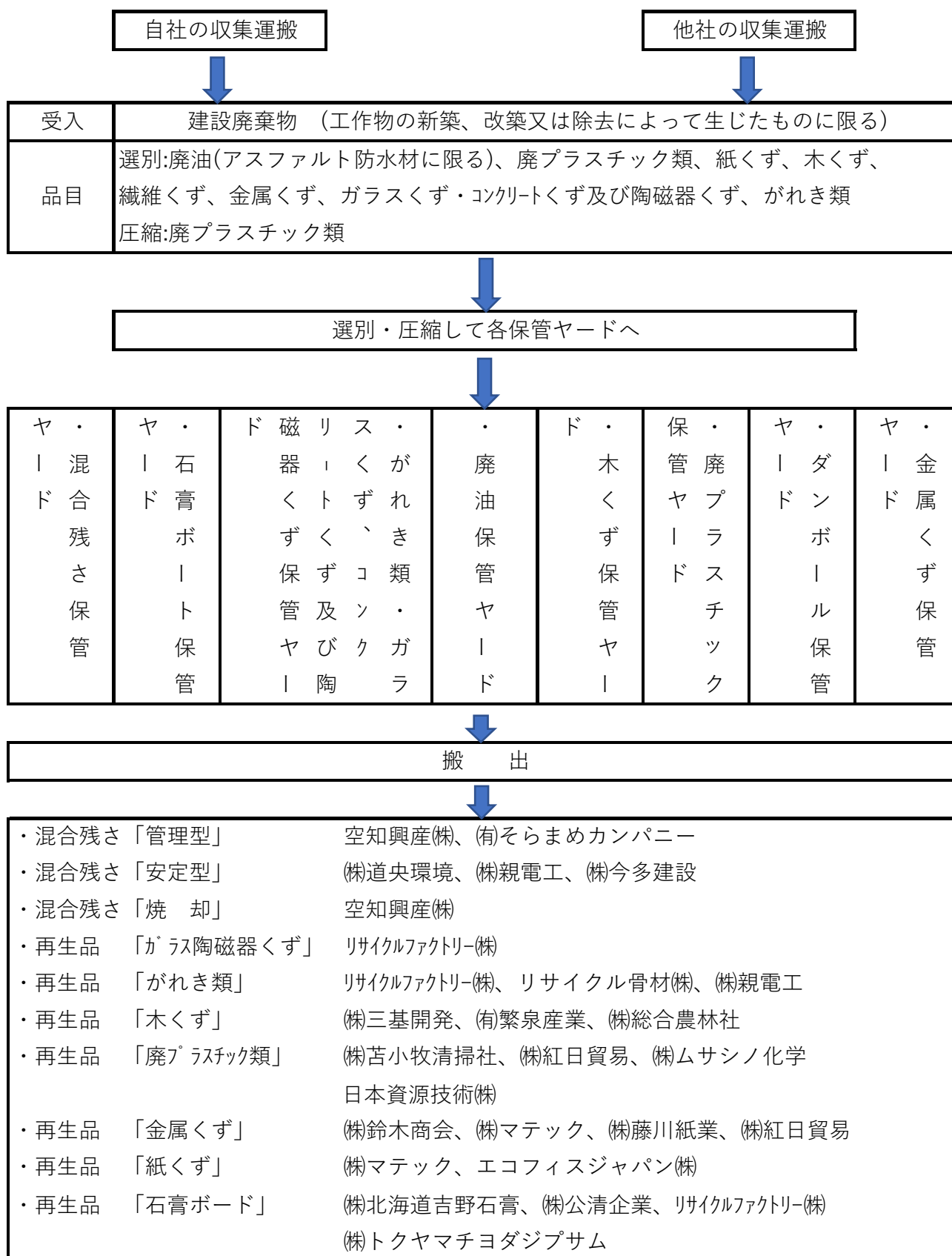
7. 2022年度活動の最高責任者の評価と今後の課題

○前年度はコロナ禍・大雪等により営業活動に制限を受けていましたが、今年度はほぼ通常の活動となりました。環境目標達成に向けた各部門の取組みにより、燃料・水道・電気使用量・リサイクル率は目標達成となりました。一方、二酸化炭素排出量は目標に届きませんでした。次年度の課題として取組んで参ります。

○近年増加している石膏ボードに対するリサイクルの取組みは、弊社のみならず道内の産業廃棄物処理業界全体の環境改善活動につながるものと考えます。弊社は、2022年度も積極的に石膏ボードのリサイクルに取組み、石膏ボードのリサイクル率は前年度比28%上昇しています。2023年度も、選別環境・作業体制を整備し、石膏ボードのリサイクル率向上に努め、最終処分場への負荷軽減を図っていきます。

○当社は建設廃棄物の処分・リサイクルを行っており、札幌市内の建設ラッシュで建設廃棄物の取扱量が増加していることは事業拡大のチャンスと捉えております。一方、最終処分場は限られており、可能な限りリサイクルを行い、事業拡大及び業績の向上に努めていきます。

中間処理施設(選別・圧縮)処理工程(東雁来リサイクルセンター)



中間処理施設(選別・圧縮)処理工程(晩翠リサイクルセンター)

